

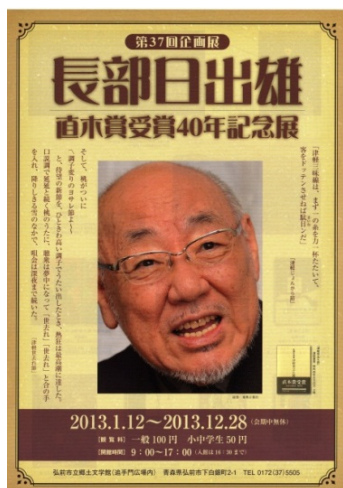
北の文脈ニュース 第70号

編集・発行 弘前市立郷土文学館 〒036-8356 青森県弘前市下白銀町 2-1 TEL0172-37-5505 <http://hi-it.net/~bungaku/>

開館中

第37回企画展 長部日出雄直木賞受賞40年記念展

～平成25年1月12日から12月28日まで～



長部日出雄は弘前出身の作家です。昭和9(1934)年9月3日、土手町でカフェを営む家の末子に生まれ、第一大成国民学校時代に太平洋戦争の開戦と終戦、兄の戦死を体験し、新制弘前市立第三中学校第一回生となります。現在使われている三中の校章は、長部が在学当時公募に応募したものが採用され今に至ります。中学、高校時代は学校新聞や文学、映画に熱中する学生時代を送り、弘前高等学校を卒業後、進学のため上京するまでを弘前で過ごしました。

やがてルポライターとして活動した後作家となり、昭和45(1970)年、弘前に一時帰郷した2年半の間、津軽を歩き回りあちこち取材し、十数本の短編を書き、その中から津軽を舞台にしたものを集めて、昭和47(1972)年『津軽世去れ節』を津軽書房から刊行。これに所収された「津軽世去れ節」「津軽じょんから節」が第69回直木賞を受賞し、以来津軽を舞台にした作品はもちろろん、伝記ものや時代小説、エッセイなど、文学・映画・宗教・社会科学など広範囲な分野を対象に執筆を続け、『鬼が来た 棟方志功伝』で第30回芸術選奨文部大臣賞を、『見知らぬ戦場』で第6回新田次郎文学賞を、『桜桃とキリスト もう一つの太幸治伝』で第29回大佛次郎賞、第15回和辻哲郎文化賞、第56回東奥賞をそれぞれ受賞します。

平成元(1989)年に公開された、津軽の四季を背景に津軽三味線に魅せられた男の姿を描いた映画『夢のまつり』では原作、脚本、監督を務めました。また小さいころからの映画好きが高じて映画評論も多く手掛け、その功績が認められて、平成19(2007)年には山路ふみ子文化賞を受賞しました。

今回の企画展では、書籍はもちろん直筆原稿や、御自身が所蔵している取材時の記録写真や弘前時代の写真、成績表、書簡など、普段目にするのできない貴重な資料を多く展示しています。

長部日出雄氏来館

平成25年2月7日、長部日出雄御夫妻が来館されました。



常設展、企画展を、交流のあった作家らの思い出や、『古事記』に対する見解など、記者の質問に答えながら見学していかれました。

当館では平成25年晩秋に、長部日出雄の講演会を予定しております。

見学する長部日出雄御夫妻

◆◆ 長部展図録販売中 ◆◆

第37回企画展

「長部日出雄－直木賞受賞40年記念展」の図録が完成いたしました。

観覧の記念にぜひお求めください。

全32ページ、頒布価格500円



第36回 企画展

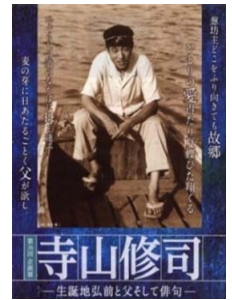
「寺山修司-生誕地弘前と父そして俳句-」終了！！

この企画展は、寺山の死後明らかにされた生誕地弘前、父と弘前の関係、寺山の原点ともいえる俳句に焦点を当てましたが、予想を上回る来館者を迎え、「新鮮でよかった」「寺山の才能に感動」などの感想が寄せられました。

新資料の草稿、入手困難な句集や歌集を公開することができ、好評を得たことは、当館としても喜ばしい限りです。

また、ご協力いただいた関係者各位にお礼申し上げます。

なお、今年7月1日から9月30日まで、寺山修司がスポット企画展として帰ってきます。見逃した方は、この機会にぜひご来館ください。



スポット企画展のおしらせ 平井 信作 展

期間：平成25年4月1日～6月31日

平井信作は、南津軽郡浪岡町(現青森市)生まれ。旧制弘前中学校を卒業。

軍隊生活を経て、地元でりんご移出業に従事しながら、『弘前文学』や『月刊東奥』に小説を発表。郷土出身者が執筆していた『東奥日報』の連載小説を平田小六らの後を受け、「生柿吾三郎の来歴」を、同郷の画家・常田健の挿絵で連載。大好評を得て、長期連載となりました。今官一主宰の『現代人』に発表した「生柿吾三郎の税金闘争」が、第57回直木賞候補となり、「生柿吾三郎」は、平井の小説の代名詞になりました。

津軽弁を駆使し、独特のユーモアで、風土に根ざした小説を書き続けた平井信作の文学を紹介します。



『生柿吾三郎の税金闘争』
文藝春秋社
昭和42年11月1日刊

「石坂洋次郎代表作紹介『麦死なず』」

2階・石坂洋次郎記念室 1月12日から12月28日まで

作品「麦死なず」は、石坂の妻うら夫人が共産主義運動に走った事件を取り上げたものです。昭和11年、文芸雑誌『文藝』8月号に480枚を一挙掲載するという試みとその内容が話題を集め、『三田文学』に好評連載中であった「若い人」とこの「麦死なず」によって、作家としての地位を確立します。

掲載された雑誌や初版本、同時期に発表された作品など、年表や写真と共に紹介しています。ぜひご覧ください。



平成24年度

「北の文脈文学講座」を終えて

「北の文脈文学講座」は、展示資料をより深く楽しみながら鑑賞していただくために、平成24年5月からスタートしました。全8回の講座では、太宰治、寺山修司、陸羯南、今官一、石坂洋次郎、長利伸聰が取り上げられました。6月には講師に作家世良啓氏を、8月には特別講座としての講演会講師に俳人新谷ひろし氏を招き、企画展作家寺山修司について、貴重なお話を語っていただきました。

おかげ様で毎月多くの受講者にご参加いただき、昨年12月で平成24年度の日程を終了しました。来年度も講座を準備中です。皆様のご参加をお待ちしております。

